慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	私の本棚
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学理工学部
Publication year	2023
Jtitle	新版 窮理図解 No.36 (2023. 1) ,p.7- 7
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	慶應理工の科学技術社会論 : より良い社会を目指した文理共創の試み 外国語・ 総合教育教室 見上公一 (准教授)
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000036-0007

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

私の本棚

My favorite books

『The Impact Agenda』

2020年に出版された比較的新しい本ですが、研究をどのように評価するべきなのかという重要なテーマを扱っています。日本でも科学は役に立つべきかといった議論がなされていますが、英国では研究の「インパクト」がキーワードとなっています。明確な答えはありませんが、科学研究を社会として推進していくための学びが詰まった一冊です。

『Laboratory Life』

実験室を文化人類学の考察の対象として扱ったこの本は、科学技術社会論という私の専門分野に１つの大きな流れをつくった記念碑的な一冊です。科学研究というと何か特別な世界で行われている感じがしますが、それが間違いなく私たちと同じ人間の手によってなされているのだということを改めて気付かせてくれます。2021年にようやく日本語版が出版されて、より多くの人に読んでもらえるようになりました。

サイエンスフィクション

科学技術の発展は私たちの生活を大きく変えてきましたが、だからこそこれからどうなるのか不安に思う人がいることも間違いありません。サイエンスフィクションは、そのような不安をより鮮明な形で物語として表現しているものも多く、科学技術の未来を考える材料を提供してくれているとも言われています。名作と言われるサイエンスフィクションは仕事の息抜きにも最適です。

科学史関連の本

科学史では、科学がどのような歴史的な変遷を辿ってきたのかをその当時の社会の状況と結びつけながら理解します。もともと現代の科学技術を研究テーマとしてきたので、歴史は専門分野ではないのですが、知れば知るほどに面白いですね。ここで紹介しているローレンス・プリンチペ著『科学革命』と古川安著『科学の社会史』は、科学史への入り口として学生にも薦めています。

『Human Choice & Climate Change』

指導教官のRayner先生に渡されて、最初に読んだのがこの本の文化人類学者Mary Douglasたちが書いた「Human needs and wants」という章でした。人々が何を必要として、何を求めているのかを社会の構造という観点から理解することの必要性が議論されていますが、研究者としての道を歩むことになったきっかけをつくってくれた大切な本です。